

触媒学会会長候補者「経歴と会長としての抱負」

1) 候補者指名

山中 一郎 (やまなか いちろう)

2) 生年月日

1960年10月28日

3) 略歴

1986年 東京工業大学工学部化学工学科卒業

1991年 東京工業大学理工学研究科化学工学専攻博士後期課程修了

1991年 東京工業大学工学部化学工学科・助手

1996年 米国テキサス A&M 大学化学科博士研究員

1997年 東京工業大学工学部化学工学科・助教授

1999年 東京工業大学大学院理工学研究科応用化学専攻・助教授

2012年 東京工業大学大学院理工学研究科物質科学専攻・教授

現在に至る。



4) 所属・職位

東京工業大学物質理工学院応用化学系・教授

5) 専門分野

電極触媒化学, 部分酸化触媒化学, メタン転換触媒化学

6) 受賞歴

1997年 触媒学会奨励賞

2000年 石油学会奨励賞

2020年 触媒学会学会賞 (学術部門)

7) 会長としての抱負 (350字程度)

時代はカーボンニュートラル (以下 CN) の実現に向けて大きく舵を切ったことは今更言うまでもありません. CN が実現できるか否かは, 我々が永続的に存続できるかどうかに関わっています. 現在は, 科学的に確かな証拠のない手法であっても, CN を推進するために前掛かりで研究開発が進んでいます. CN を実現するためには, これまでも目指している高効率触媒の開発が肝であり, 触媒化学・技術が強く貢献できることは言うまでもありません. 触媒学会の場において, 科学的事実, 理論的背景, 論理的思考に基づいた, 真剣かつ客観的な討論を行い, 間違った解釈や結果に対して凜とした姿勢を示すとともに, 革命的な触媒化学技術に結びつくような建設的な意見交換を行えることが重要だと考えます.

CN に直接関わらなくとも, 触媒による化学反応の効率化とその化学の解明は,

科学の命題の一つであり，肅々と推進しなければなりません．いずれにしても研究活動に必要不可欠な討論や情報交換を実のある形で推進するためには，前会長が推進されたように，対面とオンラインの会議を自在に使いこなし，時間と場所の障壁，活性化エネルギーを低くすることが肝要と考えています．2022年 TOCAT 9th が成功するように学会として全力でサポートするとともに，2028年 ICC 招致に向け，持続的に活動していきます．研究のための研究ではなく，前に進むための研究を応援したいと考えています．また，この担い手となる若手人材を輩出することが学会の責務と考えています．